

エッチュウバイの資源管理に関する研究

(第2県土水産資源調査)

向井哲也・曾田一志

1. 研究目的

エッチュウバイ資源の持続的利用を図るため、エッチュウバイの資源生態およびばいかご漁業の漁獲実態を調査し、適正漁獲量、漁獲努力等の提示ならびに漁業情報の提供を行なう。これにより本資源の維持・増大とばいかご漁業経営の安定化を図る。

2. 研究方法

(1) 漁業実態調査

TAC漁獲システムによる漁獲データと各漁業者に記入依頼を行なっている操業野帳を解析し、エッチュウバイの漁獲動向、資源状態、価格動向、漁場利用について検討を行なった。

(2) 資源生態調査

JF大田支所ならびにJF仁摩支所に水揚げされる漁獲物の殻高を銘柄別に測定し、この結果と銘柄別漁獲箱数からエッチュウバイの殻高組成を推定した。また、日別漁獲データを元にDelury法による資源状態の解析を行なった。

3. 研究結果

(1) 漁獲動向

項目	数 値	前年比	平年比 **
総漁獲量 (トン)*	117トン	95%	105%
総漁獲金額 (万円)*	5220万円	92%	81%
バイ漁獲量 (トン)	96トン	91%	106%
バイ漁獲金額 (万円)	3554万円	89%	75%
操業日数	197日	97%	108%

* タコかご含む

** 過去10年の平均との比

平成19年のエッチュウバイの漁獲量は、漁獲が多かった前年は下回ったが、平年はやや上回った。ただし、単価は平均371円/kg(前年377円)と前年以上に低く、バイの漁獲金額は3,554万円(平年比の75%)にとどまった。

(2) 資源状態

資源状態の目安となる1航海当たり漁獲量は平成12年以降下降を続けていたが、平成19年度は487kgと平成12年以前の水準であった。ただし、前年と同様大型貝の比率が高く、1航海当たり漁獲個数では過去2番目に少ない。漁獲物の殻長組成から見ても小型貝が少なく資源状況は依然厳しいと考えられる。

4. 研究成果

調査で得られた結果は、島根県小型機船漁業協議会ばい部会の資源管理指針として利用されており、これを元に漁業者が自主的に漁獲量の上限を定めるなどの資源管理が行われている。

5. 文献

- 1) 村山達朗・由木雄一：島根県水産試験場事業報告書(平成4年度), 64-69(1991)。